



表面 (三月)

裏面 (四月)

具注曆木簡復元図

(表面)

矢印を中心に折り返してみてください

(裏面)

三月大	一日癸丑開	九坎天倉
	二日甲寅閉	婦忌
	三日乙卯建	厭対
	四日丙辰除	
	五日丁巳滿	重
	六日戊午平	
	七日己未定	血忌
	八日庚申執	□□□□
	九日辛酉破	上玄岡虚厭□
	十日壬戌破	三月節急盈九坎
	十一日癸亥危	重馬牛出椽□
	十二日甲子成	絶紀婦忌□天倉
	十三日乙丑収	天間日□□
	十四日丙寅開	血忌□厭対
	十五日丁卯閉	
	十六日戊辰建	
	十七日己巳除	重
	十八日庚午滿	
	十九日辛未平	
	廿日壬申定	厭
	廿一日癸酉執	
	廿二日甲戌破	九坎
	廿三日乙亥危	重
	廿四日丙子成	婦忌天倉
	廿五日丁丑収	三月中
	廿六日戊寅開	血忌厭対
	廿七日己卯閉	
	廿八日庚辰建	
	廿九日辛巳除	重
	卅日壬午滿	往亡

卅日壬午滿	天倉	重
廿九日辛巳除	天倉	重
廿八日庚辰建	天倉	重
廿七日己卯閉	天倉	重
廿六日戊寅開	天倉	重
廿五日丁丑収	天倉	重
廿四日丙子成	天倉	重
廿三日乙亥危	天倉	重
廿二日甲戌破	天倉	重
廿一日癸酉執	天倉	重
二十日壬申定	天倉	重
十九日辛未平	天倉	重
十八日庚午滿	天倉	重
十七日己巳除	天倉	重
十六日戊辰建	天倉	重
十五日丁卯閉	天倉	重
十四日丙寅開	天倉	重
十三日乙丑収	天倉	重
十二日甲子成	天倉	重
十一日癸亥危	天倉	重
十日壬戌破	天倉	重
九日辛酉破	天倉	重
八日庚申執	天倉	重
七日己未定	天倉	重
六日戊午平	天倉	重
五日丁巳滿	天倉	重
四日丙辰除	天倉	重
三日乙卯建	天倉	重
二日甲寅閉	天倉	重
一日癸丑開	天倉	重

発見!! 持統3年の具注曆木簡(飛鳥藤原第122次)
 石神遺跡から出土したこの円盤状の木簡は、具注曆と呼ばれたカレンダーの一部です。干支の下には「建、除、滿、平、定、執、破、危、成、収、開、閉」の順にめぐる「十二直」が規則正しく並びます。その下には、「九坎」(万事に凶)、「婦忌」(この日の婦宅は凶)、「血忌」(この日の出血は凶)、「天倉」(倉開きに吉)など、その日の吉凶が記されています。「上玄(弦)」(上弦の月)、「望」(満月)といった、月の満ち欠けも書かれています。以上のような情報を読み解くことによって、表面が持統3年(689)3月8日~14日、裏面が同年4月13日~19日の曆

であることがわかりました。日本最古の現存するカレンダーです。「元嘉曆」という、中国から百済を経由して日本に伝えられた最初の曆です。
 周囲が丸く削られているのは、廃棄後に木器として転用されたからです。もともとは、表面に3月、裏面に4月、それぞれ1ヵ月分の曆日を記した長方形の板であったと推定されます(復元図参照)。
 具注曆は天皇の名のもと政府が作る正式の曆で、官司や諸国にはその写しが頒布されました。本来は紙に書かれた巻物ですが、同時に多数の役人たちがみられるよう、板材に書き写すという工夫をしたのでしょうか。(飛鳥藤原宮跡発掘調査部 市 大樹)